

種名	ツ　　チ　　フ　　キ
	<u>Abbottina rivularis</u>
	
分類	コイ科カマツカ亜科ツチフキ属
俗称	スナモロコ(関西)、ドロモロコ
形態的な特徴	体はやや縦扁し、吻は短く、ややとがる。眼は高い位置にあり、口は吻端の下方に開き、1対の短い口ひげがある。体色と斑紋の形はカマツカに似るが、概して濃い。胸びれ、背びれ、尾びれには鱗条に沿って褐色の小さな斑点が並ぶが、胸びれのものは不明瞭なことが多い。
分布	濃尾平野、近畿地方、山陽地方、九州北西部に分布する。宮城県や関東平野にも移植され定着している。
繁殖行動	産卵期は4～6月。卵は沈性粘着卵で、最大径2.5～3.0mm。寒天質様の物質を多量に含む。卵はすり鉢条の巣の中で1尾の雄によって保護される。受精後5～6日で孵化し、雌雄とも多くは2年で成熟する。
生息場所	平野部の湖や池や流れのほとんどない灌漑用水路に生息する。浅い砂泥底のところを主な生息場所とする。カマツカに比べて、いっそう泥の多い底質を好む。
食性	雑食性で、ユスリカ幼虫、イトミミズ、デトリタス、浮遊動物、付着藻類などを食う。
生息環境への配慮事項	
その他	
引用文献： 改訂版 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚を改変を改変	